マーケットの底流を読む

ハイテク価格、前月比鈍化で前年比上昇持続

関連株も短期過熱調整と中長期的な株高余地の残存焦点

（株）ジャパンエコノミックパルス
Japan Economic Pulse Co., Ltd.
info@j-pulse.co.jp

2026/10/19（月）

日銀の 9 月企業物価指数ではハイテク関連に関して、前月比での上昇鈍化と前年比での上昇持続が示された。関連株についても短期的な過熱調整の下落余地と、ビッグバン的な AI 革命等の恩恵残存による中長期的な株高余地が焦点になる。ハイテクに関係する電子部品・デバイスの価格は米国の代表的なハイテク株指数・SOX（フィラデルフィア半導体株指数）との長期比較実績で、過去に株高の天井形成前後で観測されてきた「価格前年比の下落基調転換」といった変調サインは見られていない。

株安、決算対策や決算発表・中間選挙への備えも

「AI は自分の生涯で最も影響力の大きい経済的変化」、「AI は将来的に米国経済にとって大きな恩恵となる」（米 FRB のウォーシュ議長、10 月 16 日）、「ここ数カ月や半年ほどのフロンティア AI の進展には、目を見張るものがある」、「当初の想定以上に裾野が広い AI 関連需要が日本と世界の経済を下支えしており、景気減速懸念は一頃より低下している」（日銀の小枝淳子審議委員、15 日）――。

10 月中旬にかけては改めて米日の中銀幹部から、AI 革命のインパクトの大きさが指摘されている。

現状は米日の AI を含めたハイテク関連株について、将来利益との見合いでの割高懸念や過熱警戒、債務リスクなどで調整下落が見られている。先行き一段の逆流反転リスクは注視されるものの、米国の市場関係者からは、投信など各種ファンドによる年末決算対応や、10 月後半にかけての決算発表と 11 月の米中間選挙などを前にした未然対応など、「短期的な調整の範囲内」といった見方も聞かれる。

その中で日銀の 9 月企業物価指数ではハイテク関連に関して、「前月比での上昇鈍化」と「前年比での上昇基調持続」が示された。関連株についても短期的な過熱調整の下落余地と、日柄調整によるレンジ横這い化、そうした調整をへたあとの中長期的な株高余地の残存が注目されやすい。

AI と物価に関して小枝委員は 15 日、「AI に関連した輸出や省人化などの設備投資は需要を喚起する方向で働くほか、強いグローバルな AI 関連需要は物価上昇圧力になっている」という見解を示していた。良くも悪くもながら、AI・ハイテク関連の需要増加と関連価格の上昇は、関連企業の収益増加と株高の要因になっている。

日銀の企業物価でハイテクに関係する「電子部品・デバイス」の価格は、物価上昇の瞬間風速的なモメンタムを示す前月比が 9 月に＋0.4%となった。8 月の＋1.2%や 6 月の＋1.4%などからは、勢いが鈍化している。

前月比の 3 カ月移動平均でも、1 月の 0.0%を直近最低とした急上昇が、8 月の＋1.0%で一旦のピークとなり、最新 9 月は＋0.7%と鈍化している。過去は SOX の月間高値動向と時間差ケースを含めて、相関性を有してきた。その点で 10 月以降の SOX 下落は、関連価格の急上昇のスピード調整的な鈍化も一因となっている。

一方、SOX と電子部品・デバイス価格の長期比較実績で、中長期のトレンドと相関性が高いのが、価格の前年比のトレンド基調だ。過去には価格前年比の 12 カ月や 24 カ月といった移動平均に関して、トレンドを示す方向角度が上向きから下向きに転換となる前後で、SOX は株高天井のピーク到達と反落局面入りが観測されてきた。

関連価格の前年比「下落基調転換」で株価は天井

その点、最新 9 月時点で価格前年比の 12 カ月、24 カ月移動平均は、上向き化の基調が維持されている。9 月は単月での前年比も＋4.9%となり、8 月の＋4.4%を含めて、2025 年の－0.1%を最低ボトムとした上昇トレンドが持続となっていた。SOX など米日のハイテク関連株に関して、中長期スパンでの株高余地の残存につながりやすい。

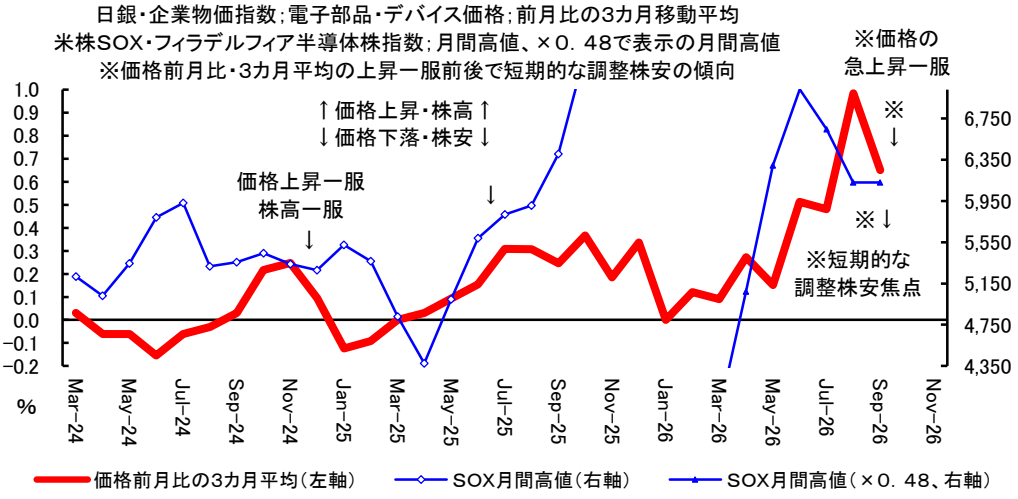
現在の SOX は中長期の株高トレンド局面にあるなか、昨年 6 月以降は月間安値が「5 カ月前の月間安値比」で上昇となる下限切り上がり基調が続いている。過去の長期実績として、日銀・企業物価での電子部品・デバイス価格が前年比の 12 カ月移動平均ベースで上向き基調が維持されている限り、こうした下限切り上がり基調は維持延命となってきた。

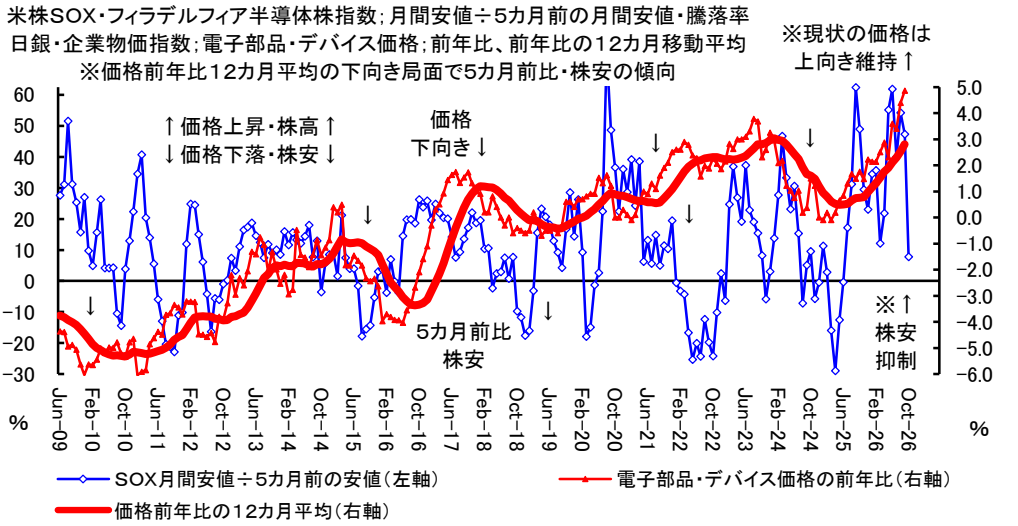
その点で目先は SOX が調整下落となっても、「5 カ月前の安値方向」ではサポートされる押し目買い地合いが注目されやすい。SOX は 10 月から下落が見られ、10 月 15 日段階での月間安値は 11171 となっている。現状段階では 5 カ月前である 5 月の月間安値 10364 比で、プラスを維持している状況だ。

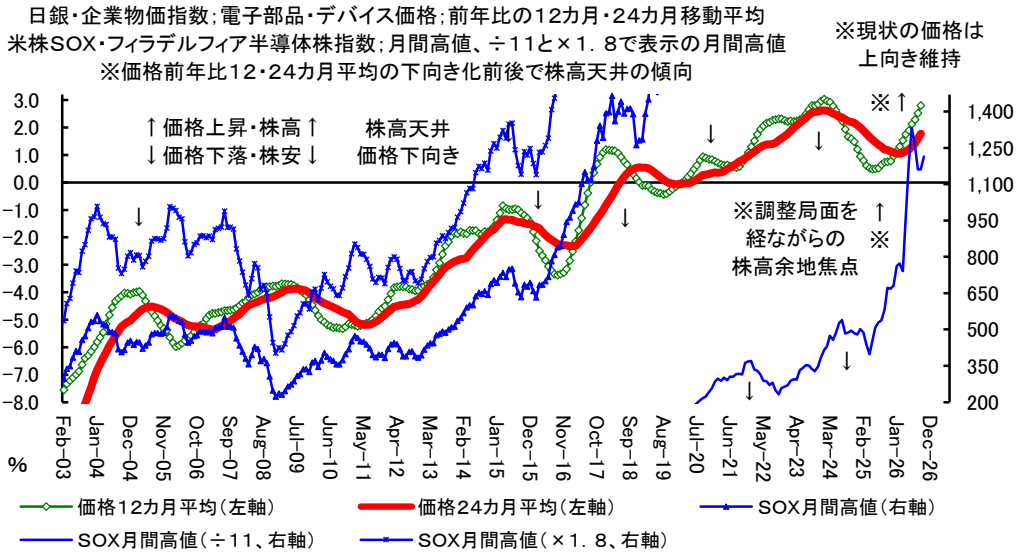
先行き安値メドで注目される 5 カ月前の月間安値は、11 月が 6 月の安値 11794、12 月が 7 月の安値 10445 などとなっている。

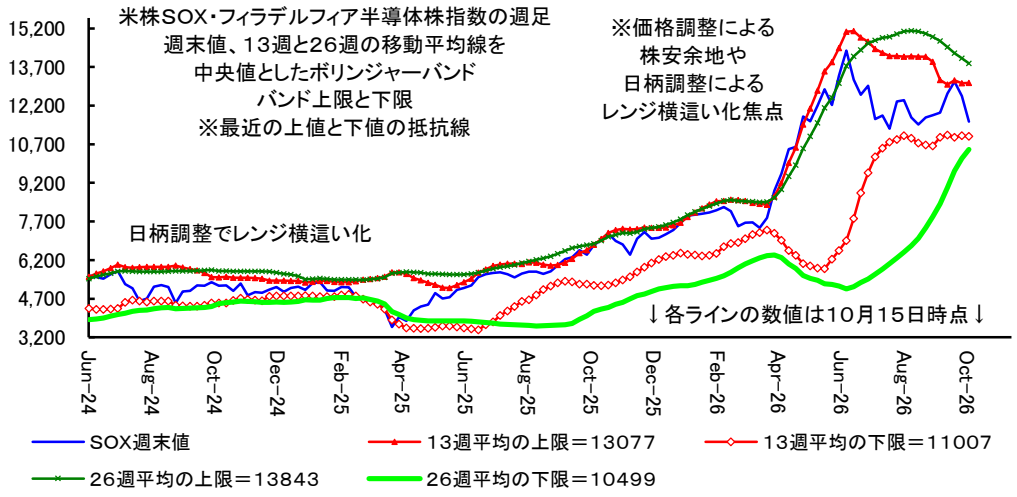
過去の SOX の上昇局面からの天井高値の形成と、日銀・企業物価での電子部品・デバイス前年比の 12 カ月、24 カ月移動平均との相関実績は以下の通りとなっている。現状の価格前年比は 9 月段階で、12 カ月平均が＋2.8%（8 月時は＋2.5%）、24 カ月平均が＋1.8%（＋1.6%）となっており、前年比プラス化と方向角度の上向き基調が保たれている。

■　SOX の月間高値が 2024 年 7 月で天井ピーク形成＝電子部品・デバイス価格の前年比は、12 カ月、24 カ月移動平均ともに「5 カ月前」の 2024 年 2 月から方向角度が下向き化に転換となっていた。以下同。
■　2020 年 2 月で天井高値を形成＝価格の前年比は、24 カ月平均が「4 カ月前」からマイナス化へと下落。
■　2018 年 3 月で天井高値を形成＝価格の前年比は、12 カ月平均が「1 カ月前」から方向角度が下向き化。
■　2015 年 6 月で天井高値を形成＝価格の前年比は、12 カ月平均が「2 カ月前」から方向角度が下向き化。
■　2006 年 1 月で天井高値を形成＝価格の前年比は、24 カ月平均が「5 カ月前」から方向角度が下向き化。









お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。本レポートの内容は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。